

良品計画グループ

テキスタイル製品の原材料調達ガイドライン

バージョン： 1.0
発効日： 2025年12月
管理者： ESG 経営推進部門、産地開発部門、生産管理部門

目次

1. 目的	2
2. 適用範囲	2
3. 原材料別の調達ガイドライン	2
植物由来の繊維	2
コットン（綿）	2
そのほかの植物由来の繊維	2
動物由来の繊維／原材料	3
ウール（羊毛）	3
カシミア	3
ヤク	3
ダウン（羽毛）	3
天然皮革（レザー）／人造皮革	3
シルク（絹）	4
使用禁止の原材料	4
再生セルロース繊維	4
リヨセル	4
レーヨン	4
紙糸	4
合成繊維	4
4. 行動指針	5
4-1 原材料の責任ある調達	5
4-2 ステークホルダーエンゲージメント	5
4-3 適切な情報開示と透明性の確保	5
5. 本ガイドラインの改定について	5

1. 目的

良品計画グループは、地球環境や動物福祉、生産者や地域への影響に配慮した倫理的な意味を持つ「環境配慮型素材」を積極的に選択し、2030年度までにその調達割合を100%にすることを目標としています。「環境配慮型素材」とは、良品計画グループの人権、環境および動物福祉に関する方針に準拠した原材料として当社グループが評価・認定するものです。

本ガイドラインは、「良品計画グループ 責任ある原材料調達指針」を補完することを意図し、無印良品のテキスタイル製品、天然皮革／人造皮革製品に使用する原材料の調達に関するガイドラインを記載しています。良品計画グループの従業員は本ガイドラインの内容を適切に理解し、2030年度までに持続可能な原材料調達の実現を目指します。

2. 適用範囲

本ガイドラインは、無印良品のテキスタイル製品¹、天然皮革／人造皮革製品に使用する原材料を対象としています。

3. 原材料別の調達ガイドライン

「良品計画グループ 責任ある原材料調達指針」に基づき、主要な原材料に対する「環境配慮型素材」としての調達ガイドラインを以下に記載しています。ここに記載されていない原材料についても、「良品計画グループ 責任ある原材料調達指針」に沿ってリスクベースでの人権・環境デュー・ディリジェンス・プロセスを構築し、責任ある調達に努めます。

植物由来の繊維

コットン（綿）

良品計画グループは1999年からオーガニックコットンの使用を開始しました。2023年からは、「2030年度までに社会や環境に配慮された綿を100%調達する」ことを目標に掲げ、オーガニックコットンに限らず、選択肢を増やすことで安定した原材料の調達に努めています。当社グループが社会や環境に配慮された綿として評価したものは、オーガニックコットンを中心に、持続可能に栽培されたコットン、再生コットン等です。それぞれの基準は以下の通りです。

- ・ オーガニックコットン：Regenerative Organic Certified (ROC)、Global Organic Textile Standard (GOTS)、Organic Content Standard (OCS) または同等の認証を取得した綿
- ・ 持続可能に栽培されたコットン：Cotton made in Africa (CmiA) または同等の認証を取得した綿
- ・ 再生コットン：Global Recycled Standard (GRS)、Recycled Claim Standard (RCS) または同等の認証を取得した綿

その他の植物由来の繊維

良品計画グループは、リネン、ヘンプ、ジュート、ラミー、カポックなどの植物由来の繊維素材を使用しています。これらの素材は共通して、農薬や肥料、水を積極的に与える必要がなく、土壌汚染や水資源の枯渇などの影響が比較的小さ

¹ 製品の主要な素材がテキスタイル（布地）やダウンなどの詰め物であるもの

いとされています。当社グループは、2030 年度までに、これら素材の Life Cycle Assessment (LCA) などを評価することで環境への悪影響を抑える原材料であるかを科学的な観点からも確認し、使用の継続を判断していきます。また、ラミールに関しては、製造工程時に使用する強い酸やアルカリを可能な限り削減し、さらに製造工場が所在する現地の環境法令に準拠した排水管理を行うサプライヤーからの調達を目指しています。

動物由来の繊維／原材料

ウール（羊毛）

良品計画グループは、ノンミュールジグウールまたは再生ウールのみを 100%調達を継続することを目標としています。バージンウールの調達にあたっては、生産パートナーにノンミュールジグ証明書または原産地を確認できる書類の提出を求め、ノンミュールジグであるかを確認しています。再生ウールについては、2030 年度までにすべての再生ウールは、GRS、RCS または同等の認証を取得したものを調達することを目標としています。

カシミア

カシミアは動物福祉の観点だけでなく、放牧地の砂漠化など生物多様性への配慮も課題と考えています。良品計画グループは、カシミア山羊の動物福祉と放牧地の適切な管理、適切な労働環境等を規定したサプライヤー向けの調達方針を策定し、方針に賛同いただいたサプライヤーから調達することとしています。また、自社従業員が定期的にサプライヤーおよび牧場への訪問を行い、遵守状況に関する確認や会話を行っています。加えて、再生カシミアの活用も進めており、2030 年度までに GRS、RCS または同等の認証を取得したものを 100%調達することを目標としています。

ヤク

良品計画グループは、ヤクの動物福祉と適切な労働環境等を規定したサプライヤー向けの調達方針を策定し、方針に賛同いただいたサプライヤーから調達することとしています。また、自社従業員が定期的にサプライヤーおよび牧場への訪問を行い、遵守状況に関する確認や会話を行っています。

ダウン（羽毛）

良品計画グループは、製品に使用されるすべての羽毛は、食肉用のアヒルおよびガチョウから採取されたバージンダウンおよびフェザーのみを調達しています。2018 年度以降、すべての羽毛は Responsible Down Standard (RDS) または同等の認証を受けた牧場で生産されたものを調達しており、これを継続することを目標としています。加えて、再生ダウンの活用も進めており、2030 年度までに GRS、RCS または同等の認証を取得したものを 100%調達することを目標としています。

天然皮革（レザー）／人造皮革

良品計画グループは、製品に使用されるすべてのレザーは、食肉用に飼育された家畜由来のレザーのみを調達しています。また、製品に使用されるすべてのレザーは、2030 年度までに Leather Working Group (LWG) 認証の Silver ランク以上または同等の認証を受けたサプライヤーから調達することを目標としています。

人工皮革・合成皮革に関しては、耐久性、再生素材や植物由来の原料比率、禁止薬物など自己評価基準を定め、持続可能な合成皮革の利用に向けた取り組みを推進します。

シルク（絹）

良品計画グループは、「良品計画グループ 動物福祉指針」に準拠し、繊維を採取することを目的として、カイコ（蚕）の命を奪うことのないシルクの調達を目指しています。

使用禁止の原材料

良品計画グループは、「良品計画グループ 動物福祉指針」を制定し、使用を禁止する動物由来の原材料を定めています。

再生セルロース繊維

良品計画グループは、再生セルロース繊維の持続可能な調達に向け、森林破壊や森林の劣化が発生していないことが証明された木材²を原料とし、製造過程において適切な化学物質の管理を行うサプライヤーから調達することを目指しています。

リヨセル

良品計画グループは、製品に使用するすべてのリヨセルは、森林破壊や森林の劣化が発生していないことが証明された木材を原料とし、製造工程において化学物質や排水の適切な管理など、環境負荷の低減に取り組むサプライヤーから調達することを継続的な目標としています。

レーヨン

良品計画グループは、製品に使用するすべてのレーヨンについて、2030年度までに、森林破壊や森林の劣化が発生していないことが証明された木材を原料とし、製造工程において化学物質や排水の適切な管理を通じて環境負荷の低減に取り組むサプライヤーから調達することを目標としています。

紙糸

良品計画グループは、「良品計画グループ 環境方針」に準拠し、森林破壊や森林の劣化が発生していないことが証明された木材を原料とする紙糸の調達を2030年度までに実現することを目標としています。加えて、非木材パルプ（マニラ麻、ヘンプ、竹、サトウキビのバガスなど）から作られた紙糸を調達することを目指しています。

合成繊維

良品計画グループは、将来的に製品に使用するすべての合成繊維について、原料を再生由来または植物由来とすることを目標としています。この目指す姿に向けて、2030年度までに、合成繊維を使用するすべての製品において、再生原料または植物由来原料を活用した素材を採用することを目標としています。

再生原料は、Global Recycled Standard (GRS)、Recycled Claim Standard (RCS) または同等の認証を取得したものを調達することとしています。

また、合成繊維における植物由来原料の拡大や、生分解性素材の開発を推進します。

² FSC (Forest Stewardship Council) または PEFC (Pan European Forest Certification Schemes) の認証を受けているか、これらの基準に沿った検査を受けているもの

4. 行動指針

4-1 原材料の責任ある調達

良品計画グループは、「良品計画グループ 責任ある原材料調達指針」で定める行動指針に従い、以下の取り組みを推進します。

- ・ 原材料の生産段階における人権および環境リスクの影響を特定・評価し、リスクを防止・軽減するためのデュー・ディリジェンス・プロセスを構築します。
- ・ 原材料ごとに人権、環境および動物福祉に関する方針に準拠した調達基準やガイドラインを策定し、適宜見直します。
- ・ 原材料の原産国・地域のトレース管理を行います。
- ・ 原材料の調達に関わる従業員および生産パートナーへの教育・啓発を行います。

4-2 ステークホルダーエンゲージメント

良品計画グループは、「良品計画グループ 責任ある原材料調達指針」で定める行動指針に従い、ステークホルダーとの対話を重視し、原材料の調達に関する共通の理解と協力を深めます。

4-3 適切な情報開示と透明性の確保

良品計画グループは、国際的なサステナビリティ情報開示基準に沿って原材料調達に関する取り組み等を定期的に関示し、透明性の確保に努めます。また、原材料の調達に関する表示内容や広告表現について、その正当性を証明できるよう情報の管理を行います。

5. 本ガイドラインの改定について

本ガイドラインは、社会情勢の変化やデュー・ディリジェンスの結果等に応じて適宜見直し、改定を行うことがあります。